

武田久吉博士収集の御札類について

加藤 隆志

はじめに

武田久吉博士（1883-1972。以下、「武田博士」と記す）は、明治期のイギリス外交官として文久2年（1862）に最初に日本に訪れたアーネスト＝サトウ（1843-1929）の次男として生まれ、自然保護の先駆的な活動を行い、高山植物の研究や尾瀬の美しさを世に知らしめたことでも著名な植物学者である。

一方で、武田博士は植物に関する民俗にも関心を寄せて『民俗と植物』（1948）の著作があるほか、山村を中心に自ら訪れた地域で撮影した多くの写真とその説明を掲載した『農村の年中行事』をすでに第二次世界大戦以前の昭和18年（1943）に著している。さらに、道祖神などの石造物に関しても、やはり多くの写真を載せたアルス文化叢書『道祖神』（1941）があるほか、多年に渡ってそうした資料を収集しつつ、道祖神とともに中部・関東地方などの各地にたたずむ庚申塔も含めて、その時代的変遷や地域差を示した『路傍の石仏』（1971）を刊行しているのは周知のとおりである（注1）。

以下、本稿では、武田博士が収集し、このたび縁あって当館が保管することとなった道祖神等に関する御札類について簡単に紹介していく（注2）。

資料寄贈の経緯

最初に、武田博士収集資料が当館に寄贈されることとなった経緯について記す。

津久井郷土資料室は、城山ダム（津久井湖）の建設に伴う地域の民具類の収集と保存を行うことをきっかけとして、昭和46年（1971）に津久井郡郷土資料館として津久井町（当時）中野に開館したもので、特に、相模湖町（当時）在住の鈴木重光が収集したさまざまな資料を保管していることで知られている。主な資料としては、水没した地区を中心に収集された農具や漁具、生活用具などの民俗資料をはじめ、江戸時代からの古文書、明治以降の記録類や教科書、津久井地域を中心とした絵はがき、雑誌及び書籍、ポスター、新聞及び新聞のスクラップ、チラシ・パンフレット、包装紙、手紙、マッチ箱などというように実に多岐にわたっており、津久井地域の歴史や

文化を知るための貴重な資料となっている（注3）。

津久井郷土資料室に膨大な資料を寄贈した鈴木重光（1887-1967）は、青年団活動をはじめとして社会福祉事業にも活躍するなど、地域の発展に力を尽くした地元の名士である。そして、民俗学や郷土史の分野でも、大正7年（1918）夏に日本民俗学の創始者である柳田國男らによって内郷村（旧相模湖町若柳及び寸沢嵐地区）で行われた、わが国における地域の共同調査のさきがけとされる民俗をはじめとした調査に際して地元で対応した者の一人であり、内郷村調査以後においても大正13年（1924）に『相州内郷村話』を刊行するなど、津久井の民俗を中心に調査研究を進め、神奈川県民俗学や郷土史に大きな足跡を残している（注4）。

武田博士は、昭和12年（1937）の「相模足柄上郡の道祖神と小正月行事」の中で、相模の道祖神に関しては鈴木重光が『相州内郷村話』以来、再三諸雑誌に発表していることを述べている（注5）が、武田博士と鈴木重光には親交があり、古くから鈴木と深い関わりがあった中村亮雄によると、昭和21年（1946）1月に中村が鈴木と初めて会った際に、前述のアルスの写真集『道祖神』を贈られ、その書にある津久井の道祖神の写真は鈴木案内で武田博士が撮影したという話を聞いている（注6）。この点については、鈴木自らも武田博士と津久井の道祖神巡りを二回行い、その節に長野県のもの写真をたくさん頂戴していて、それらはいずれも昭和16年当時という時節柄、『道祖神』に載せることをはばかったものばかりであったことを記している（注7）。

このように武田と鈴木は、『道祖神』が刊行される第二次世界大戦開始以前に道祖神という共通の話題を通じて交流を深めていたことが伺えるが、この掲載をはばかったと思われる写真が資料室に残されている（注8）。これらの写真を注（1）に挙げたHP上に掲載するために、管理者の保坂健次さんが武田家の子孫の方と連絡を取ったことが発端となり、武田博士が収集した各地の御札類が現在の相模原市域である旧相模原市と津久井郡の資料ではないものの、武田博士と深い交流のあった鈴木重光との係わりから、当館でお預かりすることになったのである（注9）。

資料の内容について

寄贈された資料の内訳は後掲目録の通りであるが、それ以外にも書籍 136 冊とアルバム一冊も同時に寄贈されており、まずそれらについて簡単に触れておく。

書籍類は『農村の年中行事』初版本や『高山の植物』（アルス文化叢書 1）などの武田博士の執筆に拠るもの、柳田國男の著作本、各地の石仏関係等の民俗学に関するものが含まれている。アルバムは、「丸善文房具」のラベルがあるスクラップブックに主に四隅を押さえるシールを貼って写真を入れたもので、表題には「性神性崇拜資料」と書かれている。表題通り、男根状の石造物や木造製のように見える男根奉納物等が撮影された写真が 37 葉ほどある。撮影場所は長野県や栃木県などをはじめとして各地に及んでいるものの、一部については下部に撮影地や大きさ・銘文等の説明を記すのみで写真自体は外されており、何らかの場面で他に使用されたことが考えられる。

御札類は全部で 79 件・185 点であり、基本的に収納されている順に目録化した。名称は資料そのものに書かれている内容を記し、場所と年代については、資料の裏側などに直接貼られているラベルに記されている場合もあるのでそれらを記録したほか、特記事項は適宜付した。そのほかに点数の確認と法量（縦×横）を計測した。目録で資料（一）～（三）となっているのは、当館での整理を始めるのに際してすでにこの 3 グループに分かれており、このまとまりを崩さないように目録化を行い、資料（一）No.25 などの枝番は、さらに包紙の中に一括されているものである。このうち、資料（一）と（二）についての概略は以下の通りである。

資料（一）では、他のものもあるが道祖神関係のものがかなりあり、地域的には長野県と神奈川県が多くを占めている。このうち長野県関係では現在の松本市周辺で昭和 8 年（1933）ころに収集されたものが主であり、神奈川県では秦野市周辺のものが大部分である。神奈川県内では、秦野市を中心に大住郡西部と足柄上郡東部で厄払いや悪魔払いの時に「奉納道祖神」などと書いた手作りの御札を配り、御札は玄関に貼って魔除けにすることが知られている（注 10）。これらの御札は秦野市内の各地区で配られていたものと考えられ、文字だけでなく二神像や道祖神碑が描かれているものもあり、現在、配布されている御札の有無を含めて比較してみる必要があるようである。

資料（二）は、資料（一）よりもさらに内容・場所ともに広範囲に及んでいるが、庚申や釜神関係のほかにも例えば、男根状のものが描かれた金精大明神や石神なども目に付く。武田博士もアルバムの表題にあるように、そ

うした点に関心を持って関連資料を収集していたことが窺われ、『道祖神』でもこの形態の道祖神の写真が掲載されており、前述のように鈴木重光が武田博士から受け取った写真も同様であった。神奈川県では男根や女陰石を道祖神の神体にしたたり、サイトバ（小正月に正月飾り等を燃やす場）に石棒を置いたりするのは愛甲郡から特に津久井郡にかけて多く見られ、また、関連する諸行事において性的な要素を含むのは津久井郡をはじめとして愛甲郡・大住郡・海老原郡に顕著であり（注 11）、津久井郡在住であった鈴木重光もしばしば道祖神の性神としての要素を指摘している（注 12）。

石造としての道祖神の関心について、過去には民俗学の道祖神研究とは男女双体の像容の研究であると考えている研究者すらおり、さらに、性器の形態のものは人目に曝すことを避けようとするはずのものが、ひときわ誇張されたものとして人目に立つところに祀られる意外さや、淫祠邪教の類として排除されつつも人々が支持続けてきたという点などに対して、土俗的な習俗として関心を持たれ、民俗学の対象としてよく取り上げられてきた（注 13）。今回の資料は、各地のこうした信仰の昭和初期頃の状況を具体的に表すものであり、また、武田博士に限らずこれまでの民俗学において道祖神に対する関心のあり方を示すものといえよう。

おわりに

本稿では、武田博士が収集した御札類を当館が収集することになった経緯を述べた上で、その目録を掲載した。ここでは紙面の関係もあって概略を示すに留まり、個々の細かい検討は後日に期さざるを得なかった。今後、例えば年譜等と照合しながら武田博士が資料を収集した日時や場所を特定することや、これらの御札が現在でも出されているのか、あるいは図柄等が変わっていたり無くなっているかどうかなどを含めた関連する資料やデータの収集整理の課題があり、さまざまな面からの調査研究を進めながら、機会を捉えて活用を図っていく予定である。

最後に、今回の武田博士の資料の寄贈に当たっては、林 静枝様をはじめ御家族の皆様にご多大なるご厚情を賜りました。また、保坂健次さんには多方面において御尽力をいただくとともに、本稿の執筆に際してもご指導・ご協力をいただきました。記して深く御礼を申し上げます。

注

- (1) 武田博士の経歴や活動については、後述のように本資料の当館への寄贈のきっかけを作っていただいた保坂健次さんが、ご自身が主催するHP「屋根のない博物館」(<http://park19.wakwak.com/~hotaru/>)において「武田久吉博士（年譜）からの写真」として詳細な年譜を作成されている。
- (2) これらの資料は2013年11月21日に寄贈の手続きが行われた。なお、実際には御札ではないものも含まれているが、全体的な資料名としては一括して御札類とした。
- (3) 津久井郷土資料室に保管されている膨大な資料は、古文書や一部の絵はがき、雑誌・図書、教科書などについては、これまでも相模原市に合併する以前の津久井町史編さん室が編さん事業に資するためにごく一部の資料の整理を行ってきたものの、その全体像を把握するには到底至っていない。そこで、こうした資料を整理することを目的に、博物館に活動の拠点を置く市民の会である「水曜会」が平成23年（2011）1月に結成され、毎月奇数週の水曜日に継続して活動している。2014年末現在、約18,000点ほどの資料について整理し、目録化を進めつつある。なお、津久井郷土資料室は、昭和27年（1952）に県の蚕業取締所として建築された建物を利用して同46年（1971）に「津久井郡郷土資料館」として開設されたものだが、建設後60年以上を経過しており、建物の老朽化もあって平成26年度末で一般公開を休止することになった。
- (4) 柳田らの内郷村調査の経過や位置付けについては、例えば『相模湖町史民俗編』（相模湖町史編さん委員会編 相模原市刊 2007）において、小川直之が「郷土会と内郷調査－フィールドワークのさががけ－」としてまとめている。また、鈴木重光の民俗学や郷土史の業績は、相模民俗学会の機関紙「民俗」や、鈴木古稀記念文集『神奈川県民俗』（ひでばち民俗談話会 1956）等に記されている。
- (5) 『民族学研究』3-2に収録されている。
- (6) 中村「鈴木重光翁の古稀を祝して」（『民俗』第17号相模民俗学会 1956）。同書の中には、津久井郡（当時）の道祖神として、内郷村道志南・同関口（旧相模湖町）、中野町三ヶ木新宿（旧津久井町）が載せられている。なお、他に現在の相模原市内では、中央区田名陽原観音前と南区上鶴間谷口のものが収録されている。
- (7) 鈴木「津久井郡の道祖神雑感」（『民俗』第34号「神

奈川県道祖神特集号」相模民俗学会 1959）。鈴木はこのほかにも津久井郡域の道祖神についての報告をいくつか記しており、例えば神奈川県立図書館が実施した第7回県史講座に際しても道祖神を取り上げ、その講演内容をまとめている（鈴木「道祖神」『県史講座要録 神奈川県の歴史（県下の民俗編下）』神奈川県立図書館 1963）。

- (8) 注（1）の保坂さん作成の「武田久吉博士（年譜）からの写真」の中に掲載されている。
- (9) 武田博士の植物標本をはじめとする各種資料やアーネスト＝サトウ関係資料については、散逸をさせないように各地の博物館等に寄贈または寄贈予定とすることである。なお、本資料の整理に当たっては、小澤葉菜さん・保坂 匠さん、書籍の整理に際しては、阿久津 達さん・樽林 亨さんのご協力を得た。
- (10) 『相模の道祖神』（平塚市博物館特別展図録 1999）。なお、「武田久吉博士（年譜）からの写真」中の年譜に拠ると、昭和7～8年にかけて松本市で道祖神調査に着手し、7年5月に初めて松本とその周辺で道祖神や庚申塔の調査を実施、さらに、同年10月7日の柳田國男からの手紙を経て、12日には岡書院の坂口保治を通じて柳田に誘われて秦野に遠足へ出かけるとある。前述の昭和12年の「相模足柄上郡の道祖神と小正月行事」でも、武田博士は数年前の秋に柳田に誘われて秦野及びその近郊で半日の採訪を試みたと記している。そして、続けてここ両三年来、津久井・高座・愛甲・中・足柄上・足柄下郡の相模六郡にわたって、その地方の友人数名の助力を得て探る機会があったとも見えており、このころに鈴木とも会い、『道祖神』に掲載された神奈川県内の写真を撮影したものと思われる。
- (11) 『相模の道祖神』（平塚市博物館特別展図録 1999）
- (12) 例えば、注（7）に挙げた『県史講座要録 神奈川県の歴史（県下の民俗編下）』収録の「道祖神」
- (13) 倉石忠彦『道祖神と性器形態神』岩田書院 2013

武田久吉博士民俗資料（一）

番号	名 称	場 所	年 代	点 数	法 量	特記事項
1	田縣大神			2点セット×5	16.3×16.3	
2	三九郎道祖神	信州東筑本郷村字小日向 (現、松本市)	jan. '33	3	24.3×8.3	
3	道祖神	松本市蟻ヶ崙	Nov. 11. 1933	2	29.0×9.8 / 32.0×9.8	(神□三九郎) 男女二神像。
4	道祖神宮本子中	信濃北佐久郡南御牧村八幡 (現、佐久市)	1939	2	24.2×11.2	二神、銚子、盃持ち。
5	道祖神御贖 安内安全	松本市本町二丁目	Nov. 1933	1	30.0×10.0	神主三九郎 下部切れ？
6	道祖神 福間三九郎	松本市蟻ヶ崙	Nov. 11. 1933	2	27.8×9.3 / 32.0×10.0	
7	奉祈道祖神三九郎太夫	松本市出川中区	Oct. 33	1	33.0×7.9	中丁子供中 紅白水引。
8	道祖神三九郎	松本市沢村	VIII '32	2	28.0×6.2	上部を折る。
9	道祖神 神主三九郎	松本市沢村	VIII '32	3	24.0×6.8 / 24.0×7.0 / 29.7×7.9	内1枚は、下部を折る。
10	田中神社廣前祈禱神璽	岩代耶麻郡豊川村一井一 ノ堰 (現、喜多方市)	viii '38	4	33.5×10.7	耶麻郡旧一ノ堰村鎮座 中に 「田中大神」神璽。
11	奉祭 道祖神	信濃小県郡長窪古町立岩 (現、長和町)	1939. 2. 7	1	30.1×10.2	朱印付き。
12	奉修陽石大神腰病除御守護			1	31.5×8.0	日本三社／神力神道／信小縣 ／瀧宮社。上下に朱印付き。
13	奉請石神明王			3	24.3×8.0	湖北村中峠區。
14	種貸神社神符			1	18.0×6.0	内に「倉稻魂神守幸所」 包紙 あり。星型朱印付き。
15	水使大権現			2	33.4×12.4	足利五十部村。杓子と櫃をも った女神像。朱印付き。
16	大山祇命神璽			1	31.3×5.3	朱印付き。
17	加波山本宮			1	16.5×11.8	天狗。朱印付き。
18	子安如来			1	16.6×12.0	如来像、北久保村陽雲寺。
19	子安無量光如来十万人講 家内安全祈攸			1	31.5×6.5	天下和順 日月清明、相州足柄 下郡足柄村。北之窪 陽雲寺。
20	身代り地藏尊 運慶作			1	27.7×13.3	三十三番鎌倉延命寺 包紙入り。
21	上毛一社國祖産體福守大神	上州群馬郡国府村□□□ 福守神社 (現、高崎市)	10 X '37	1	32.0×9.8	群馬郡 國府村、朱印2つ付き。
22	上毛国府福守産體御守護	上州群馬郡国府村□□□福 守神社 御守り (現、高崎市)	10 X '37	1	6.7×3.8	表裏に朱印付き。
23	奉齋道祖神御璽	相模足柄上郡北足柄村瀬 戸 (現、山北町)	jan '40	1	30.0×8.3	朱印付き。

24	道祖神本郷子供連			1	24.9×8.3	「竹（ママ）田先生道祖神札在中」袋中。
25-1	道祖神子供中	※ No.25 は多くが現秦野市か		1	24.0×8.4	（曲松縣道）
25-2	奉納道祖神尊塔			1	24.3×8.4	家内安全（堀山下北上）
25-3	道祖神			1	24.3×6.3	（里木堀西）
25-4	奉修道祖神			1	24.2×5.5	（秦川）、朱印付き。
25-5	（種字）奉納道祖神			1	24.0×6.3	□覚院。
25-6	奉齋久那斗三柱神守護	中郡南秦野村字峯 （現、秦野市）	jan '38	8	24.2×8.3	朱印付。内1枚は「尾尻」と鉛筆書き。
25-7	※半紙に版木をおしたもの 「道祖神」「道祖神上町」 「道祖神下曾屋子供中 家 内安全」「一月十四日道祖 神下宿小供中」「一月十 四日道祖神東道二丁目」			1	27.2×40.0	
25-8	道祖神西落合子供中			1	24.3×5.2	「東秦野村」鉛筆書き。
25-9	道祖神道場小供中			1	22.4×65.0	「東秦野村」鉛筆書き。
25-10	道祖神 家内安全 小供連中			1	20.5×6.8	「西秦野」鉛筆書き。
25-11	一月十四日道祖神東道二 丁目			1	24.5×7.7	
25-12	一月十四日道祖神墓町上 組子供中			1	24.0×5.0	
25-13	道祖神上町		昭和12年	1	24.7×5.0	「昭和十二年」鉛筆書き。
25-14	道祖神			1	24.3×6.3	
25-15	道祖神			1	27.0×7.0	
25-16	家内安全道祖神			1	24.3×5.5	「南秦野村」鉛筆書き 表紙使用。
25-17	伊邪那美命 与母津事解 之男命速玉之男命御璽			1	25.7×55.0	朱印付き。上下折り。
25-18	道祖神	※現中井町		1	24.3×8.8	「井ノ口」鉛筆書き 中に「岩戸之□□」神璽あり。
25-19	（二神像）宮下			2	24.7×7.4	
25-20	奉納道祖神 下宿小若連			1	24.0×7.3	
26	道祖神家内安全養蚕大當 之神璽	信濃北安神城村佐野 （現、白馬村）	VIII ,32	1	28.7×9.2	朱印付き。
27	道祖神家内安全氏子中	足柄上郡中井村五所宮、 北田（現、中井町）	Jan'37	1	24.6×8.8	
28	（種字）奉納道祖神之霊	上秦野村菖蒲上庭 （現、秦野市）	Jan'37	1	24.2×6.0	カナイアン□ン 児賢院。

29	(男根画) 道祖神	信州東筑島内下平□ (現、松本市)	Jan'35	2	28.3×7.8	
30	道祖神御璽	上郡上中村字高尾 (現、大井町)	Jan'38	1	24.5×8.0	朱印付き。
31	道祖神祭璽養蚕満足五穀成就	甲州河口村 (現、富士河口湖町)	昭和十年 旧正月	1	33.3×11.0	紅白水引付き。朱印付き。
32	奉祭道祖神庄内安全	松本市□□(旧□□庄内村)	Oct. 1933	6	29.5×6.5	
33	道祖神	松本市渚	VIII '32	1	24.4×8.4	
34	道祖神御守			3	31.8×10.3	
35	道祖神守護		Jan'34	5	29.0×10.0 / 31.7×10.2	本郷村原道祖神札。
36	道祖神御守護岡田町小供中	松本在岡田町	VIII '32	1	24.4×5.3	松本在岡田町三九郎ノ時ノ配物。朱印付き。
37-1	(二神像)	※ No.37 は現秦野市か		1	24.3×8.3	「堀川下」鉛筆書き。
37-2	(二神像)			1	24.0×8.2	「沼城」鉛筆書き。
37-3	(二神像)			1	28.2×9.9	「堀西沼城中」鉛筆書き。
37-4	(二神像)			1	24.0×8.1	「堀川原上」鉛筆書き。
37-5	(道祖神碑)			1	24.0×8.2	「堀山下関」鉛筆書き。
37-6	(道祖神碑) □宮			1	24.3×10.3	「堀山下宮」鉛筆書き。
37-7	道祖神家内安全			1	25.0×5.8	「渋澤中之」鉛筆書き。
37-8	道祖神御璽			1	24.3×6.5	「干村」鉛筆書き。
37-9	久那斗之大神 家内安全			1	24.5×8.9	「峠」鉛筆書き。
37-10	(道祖神碑) 家内安全			1	23.7×8.0	「渋沢上」鉛筆書き。
37-11	道祖神家内安全小供連中			1	24.2×8.4	「曲り松馬場」。
37-12	(道祖神碑)			1	24.2×11.5	「堀西森戸」鉛筆書き。
37-13	道祖神			1	24.2×6.4	「干村」鉛筆書き。
37-14	道祖神			1	24.0×11.5	「千村ウルシクバウ」鉛筆書き。
37-15	(道祖神碑 大正十年)			1	24.1×11.0	堀山下上関 鉛筆書き。
37-16	(道祖神碑 疫神除 二神像 堀川市場中)			1	24.3×10.4	
37-17	(道祖神碑)			1	24.0×8.2	「欠 畑」。
38	船山地蔵尊像(「船山略縁起」付 田方郡函南村桑原宝船山高源寺)			1	40.0×15.8	
39	二岡神社平産守(「安産守」袋入り)(「二岡神社略記」付)	駿東郡御殿場町東田中二岡一九三九番地 (現、御殿場市)		1	28.0×9.0	紅白水引付き。
40	(道祖神御影一金□大神明)			1	30.8×7.8	「日光松原町道祖神御影」と書かれた袋入り。

武田久吉博士民俗資料（二）

番号	名 称	場 所	年 代	点数	法 量	特記事項
1	金鳥神	陸中国東磐井郡大原町鎮座（現、一関市）		2	41.0×15.5	女神像。朱印付き。
2-1	御七色守	天王寺庚申堂		1	10.5×15.0	三角形、三猿が描かれる。中に、4色の菓子4つと大豆1つ、昆布のようなもの1本、梵字の書かれた札が入っている
2-2	(不明)			1	10.0×10.5	赤い布の固を包んだ赤い紙。
2-3	乾通隆寶			1	φ 2.4	「乾隆通寶」と書かれた古銭。
3	郷社熊野神社御祈祷神璽			1	33.3×10.7	家内安全 五穀成就、朱印付き。中に、天津祝詞太祝詞と書かれた紙がのり付けされている。
4	竈神様			1	39.5×14.0	必勝祈願、増産報國、天下泰平、五穀豊穰、家内安全（祈願） 茶色く変色、左上部に切れ。
5	金精様（カ）	上州川場 星ノ宮 報賽物（現、群馬県川場村）	Oct. '37	1	24.2×34.5	男性器が墨で描かれているのみ。
6	猿投（カ）磯神の千本幟			3	25.5×3.5	奉納寅年女と書かれた紙が竹の棒に幟のようにはりつけてある。茶色く変色。包み紙に入っている。
7	正一位道祖大神御璽			1	31.2×7.5	左下部折れ。朱印付き。
8	道祖大神宮			1	29.0×7.0	右脇に猿田彦命 左わきに天細女命と書かれている。中折れ。朱印付き。
9	釜神様の札紙			6	27.5×11.0	包み紙。ヤケ大。
9-1	釜神様 一月十五日			1	27.7×40.0	馬に代かきをさせる様子が描かれている。ヤケ、シミ大、下部少し破れ。右下部に（大□□原家）と書かれている。
9-2	釜神 七五三			1	14.2×19.7	馬に代かきをさせる様子が描かれている。釜と神の間に魚が描かれる。右下部に村（山田□初代）とある。ヤケ大。
9-3	(不明)			2	28.8×18.5	おそらく猿が馬の手綱を引く様子が印刷されている。
9-4	拾二月七五三			1	29.2×42.5	墨、縦書きで、「拾貳月七五三 釜神大明神 金銀諸道具萬沢山 米豆麦粟稗 五穀萬沢山 牛馬男女 人足萬沢山 鮭鱒 鍋釜椀皿桶鉢萬沢山」と書いてある下に、おそらく猿が手綱を引き、馬に代かきをさせる様子が描かれている。右下部に（田代 山田家より）とある。ヤケ大。

9-5	釜神様			1	27.9×40.4	牛に代かきをさせる様子が描かれる。右下部に(村 桑原□□より)とある。
10	御□守 安産護符			3	7.7×6.5	中に、黒っぽい粉のような物が入っている。1つ袋破れ。
11	写真			1	27.5×9.7	道祖神の御柱か。
12	黒焼の用法 説明書			1	20.0×27.8	総元祖黒焼製法所による黒焼の用法について。
13	財団法人 聖天堂護持 會寄附行為		大正 13 年	1	18.3×12.8	財団法人設立に際しての冊子。
14	武蔵妻沼 聖天山繪葉書	(現、熊谷市)		6	14.0×9.0	聖天山 歡喜院発行。
15	大聖歡喜天由來功德略記	(現、熊谷市)		1	25.0×17.0	武弐幡羅郡女沼呂別當 聖天山歡喜院。シミ少し。止め具サビ。
16	錢阿寺由緒	足利市		1	24.5×33.0	中折れ。
17	錢阿寺寶物目録	足利市		1	27.0×38.5	中折れ。
18	開山縁起	(現、静岡県島田市周辺か)		1	23.2×32.3	どこの物かは不明。大井川流域の弘法大師のある土地の絵図。「金谷町」の名が見える。天保十二丑四月十三日とある。
19	手形之事			2	16.2×10.7	No.18 に折り込み。裏に、此ノ手形ハ大井川渡川ニ使用シタル者ヲ模擬ス 小澤保一郎とある。
20	渡川券			1	27.6×4.0	No.18 に折り込み。朱で駒の輪郭と黒い丸印があり、それぞれ「金ニ換ル」という意味と、「川會所役人ノ印」という意味だとある。昔使用した物を模擬したもの。
21	御姫尊の札	信州小縣郡棚津別當定津院 (現、長野県東御市)		1	25.5×31.3	仏が2体と、その中心に 南無妙法蓮華經 了照院殿月秀日普 貞享二丑年 十月廿日という版画がしてある。朱印付き。
22	(不明)	※No.22-25で一連のものか		1	18.0×17.0	おそらく「巳」と拓本された半紙。
23	(不明)			1	17.0×16.6	「□丁」と拓本された半紙。
24	(不明)			1	69.0×34.0	嘉永五年壬子六月と拓本された大きな半紙。左上下一部虫食。
25	(不明)			1	34.5×17.7	□□□ (漢字不明) と拓本された半紙。所々折れ。
26	金勢大明神	足利金剛山錢阿寺		1	61.7×32.4	男根の描かれた神札。
27	郷社佐倍□神社祈禱守符	陸前國名取郡笠嶋鎮座 (現、名取市)		1	31.5×10.2	紅白の水引付き。中に猿田彦太神率守護と書かれた神札 (25.5×3.0) あり。
28	文知摺 地藏尊	別當安洞院 (現、名取市)		1	31.0×10.0	御札。地藏像。朱印付き。

29	信夫文知摺 観世音菩薩	安洞禪院 (現、名取市)		2	31.0×10.0	御札。菩薩像。朱印付き。
30	地藏尊の札	豊橋市松山正林禪寺		1	27.7×12.0	地藏の両脇に僧侶が2人。
31	日金地蔵尊 端陽山東泉寺			1	33.2×11.8	御札。脇侍仏2人。朱印付き。
32	御札			2	31.2×13.5	猿が右手に桃を持ち、台座に座っている。庚申信仰か。朱印付き。
33	御札	挙母 三光寺 (現、豊田市)		1	29.5×14.0	仏像(主尊不明)。脇侍2人。
34	子安延命將軍地藏大菩薩大慈悲誓願衆病悉除身心安楽	愛知縣尾張國東春日井郡久保一色村久保寺 (現、小牧市)		1	31.0×13.5	御札。菩薩像。上部に梵字。朱印付き。
35	御札	前橋東福寺 (現、前橋市)		1	31.3×16.7	所現和光利物表 事理圓融遍法界 衛護三寶度衆生 我即大聖歡喜天 とある。主尊不明。
36	金勢大明神	足利金剛山錢阿寺		1	90.0×31.5	男根の描かれた神札。
37	地福開運 石神大権現	(現、和光市)		3	28.0×20.0	武彦白子、大木と男根の描かれた御札。朱印付き。
38	官幣春日大社□□舎大國社 式性□御神影			1	30.0×21.0	大黒天と天細女(か)が描かれた神札。福德圓滿の丸印(朱)あり。

武田久吉博士民俗資料 (三)

番号	名 称	場 所	年 代	点数	法 量	特記事項
1	正一位道祖大神宮東組			1	40.0 × 18.5	中に藁をこよりで巻いたものが1点入れられている。



(一) 長野県松本市域の道祖神の御札 (No.3～7)



(一) 神奈川県秦野市域の道祖神の御札 (No.25)



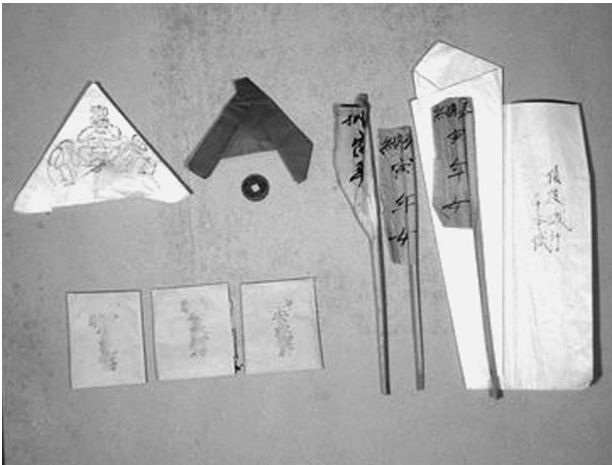
(一) 神奈川県秦野市域の道祖神の御札 (No.37)



(二) 庚申関係 (No.32・33・37)



(二)・(三)道祖神関係 (No.7・8・27、No.11〈御柱写真〉、(三)－1



(二) 庚申関係 (No.2・6) と安産護符 (No.10)



(二) 釜神関係 (No.9 - 3・4)



(二) 釜神関係 (No.4.「必勝祈願」「増産報國」の文字が見える)